花と木の実践養成教室

令和3年7月13日（火）

・多肉植物の殖やし方

・アジサイについて

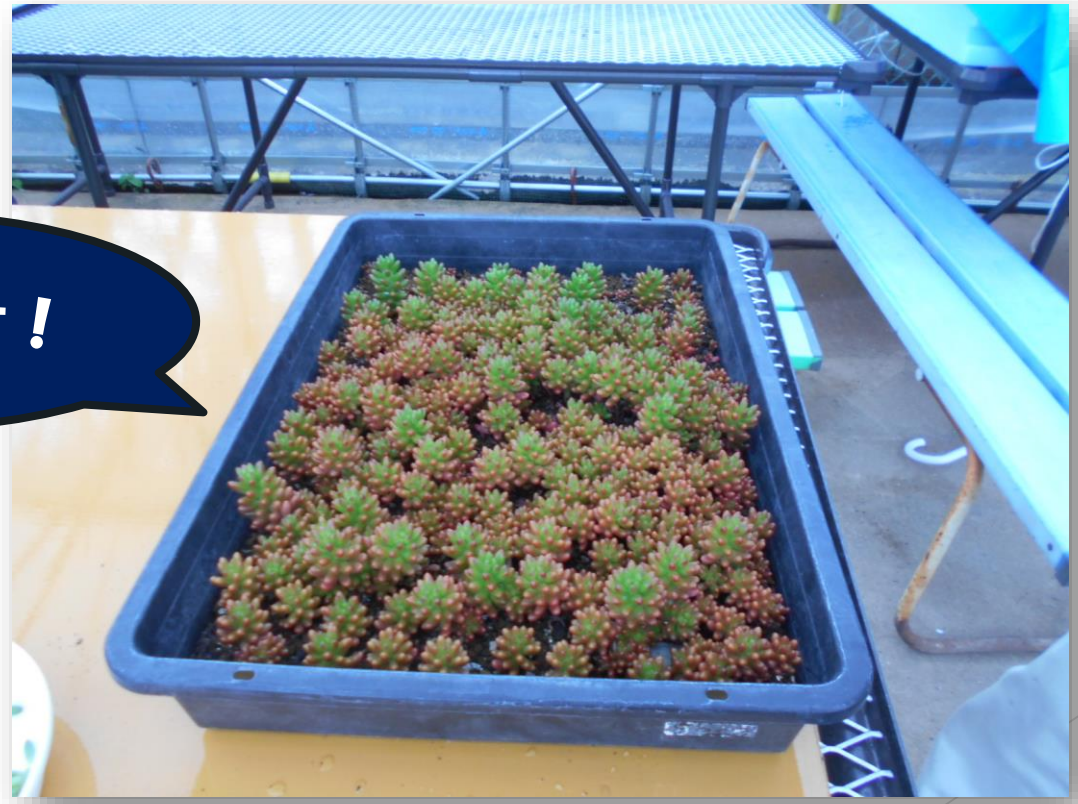
多肉植物

多肉植物が自生している場所は、湿度が低く乾燥していて、水はけが良く日当たりの良い所です。

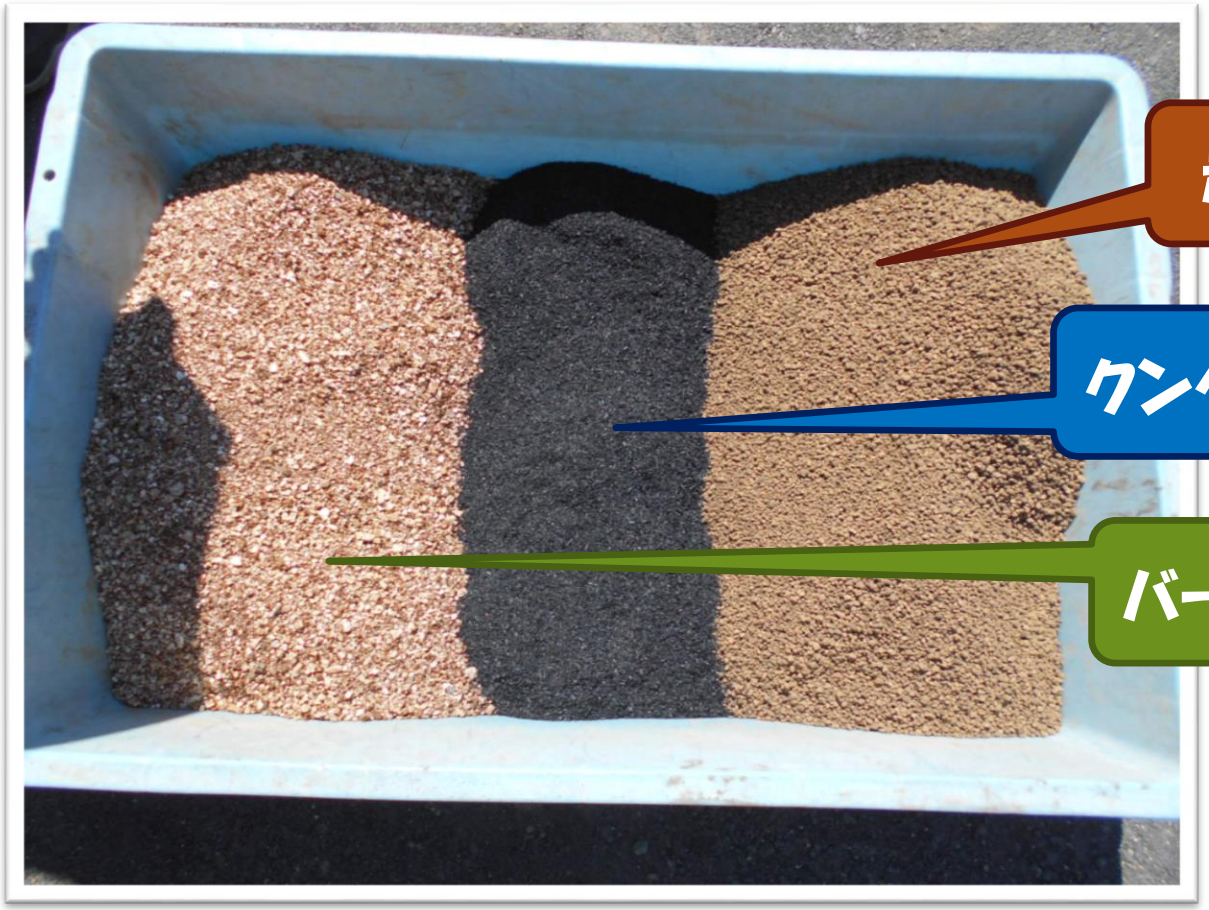
屋外で育てる場合は、日当たりの良い雨の当たらない軒下で管理します。

屋内で育てる場合は、充分な日当たりがあれば大丈夫ですが、日照不足になると徒長してしまうので、1日に4時間以上は光が当たる場所を選びましょう。

多肉植物の代表的な殖やし方として「葉ざし」「挿し芽」「株分け」などの方法があります。時期としては、春か秋に行うと良いでしょう。
今回は、繁殖力がある「虹の玉」の葉ざしを行います。



用土 （肥料成分を含まない清潔な土）



赤玉土（小粒）：排水性・通気性を高める

クンタン：通気性を高めて、微生物相を改善する

バーミキュライト：保肥力・排水性を高める

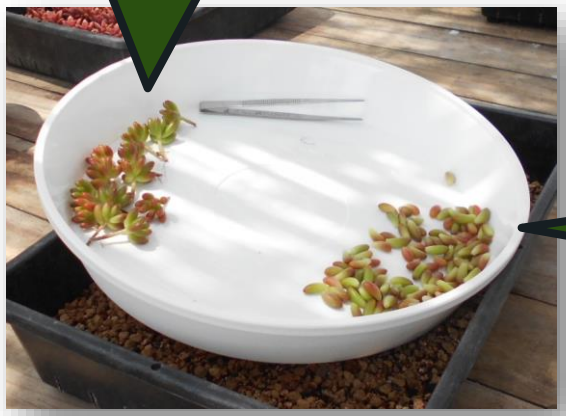
赤玉土（小粒）5割：バーミキュライト5割で、全体の1割のクンタンを配合

虹の玉です！

配合した用土を
半分くらい入れます。

生長点から10枚前後の葉を残し、
それ以外の元気な葉で殖やします。

生長点部分



分離した葉

葉は、そり返っている方から芽が出るのでこのように1cm間隔で土の上に置いて行きます。

生長点部分は、茎の部分を
そのまま用土に挿します。

アジサイの挿し木

アジサイの挿し穂の作り方

葉が大きいので
半分切り取ります。

挿す付け根の葉を
根元で取り除きます。

葉の付け根付近
が発根しやすい！

アジサイの挿し木は、葉を4枚付けて切り、下の葉は取り除いて上の葉は横に半分切り取ります。切った挿し穂は、十分に水揚してから挿して行きます。

切り口は、きれいに切らないと発根しないので良く切れるハサミで切ります。

茎を水に浸けます。

半分切り取ります。

用土については、多肉植物と同じ配合です。

水遣りは、乾いたらたっぷり与えます。与えすぎると枯れたり、発根が遅れたりします。

植え替え

庭植えの場合はほとんど植え替える必要はありません。鉢植えの場合は、根が張って根詰まりを引き起こす場合があるので2年に1回、花が終わった7月下旬ごろまたは、3～4月に行ないます。

2節ほど残し、花がらが付いた枝は切り落とします。

根を傷めないように土を落とし、傷んだ根はハサミで切除します。

アジサイの挿し穂を取った後は、植え替えも同時に行います。

植木鉢から
株を抜きます。

竹べらで根鉢を
崩します。

排水を良くするために、パーライトを3cm位入れます。

株と鉢土の表面の高さを合わせて、ウォータースペースを3cmくらい開けます。

植え替えて2週間くらいは、明るい日陰で管理します。